

平成15年12月9日

各 位

会 社 名 日本農産工業株式会社
代表者名 取締役社長 三好正俊
(コード番号 2051 東証・大証第一部)
問合せ先 経営企画室 小林重紀
(TEL.045-224-3717)

バイオ研究所横浜ラボを新設し、
タンパク発現事業の拡充と DNA 免疫法による抗体作製を開始

日本農産工業株式会社は、バイオ事業への取組みを ADME/Tox(薬物動態)、タンパク発現、生殖医療、遺伝子改変動物の四分野と位置付け、これまで各分野の強化を図ってきました。

このうちタンパク発現分野では、つくば市の当社バイオ研究所において、昆虫細胞を使った受託発現を実施していますが、受託実績が順調に増加するにつれて施設が手狭になってきました。

このため平成16年1月より、本社に近い横浜市内に新たにラボを開設し、受託サービスの能力増強を図ります。今後は、バイオ研究所をつくばラボ、横浜ラボの2拠点体制とし、タンパク発現及び精製の受託サービスをさらに拡大していくとともに、研究・開発基盤を充実させることで、この分野での将来の飛躍に備えます。

またこれと同時に、今春よりドイツのジェノバック社(Genovac A.G.)と提携して取り組んできた DNA 免疫による抗体の受託作製の斡旋についても、今般国内での作製に関わる技術とライセンスを取得したのを機会に、必要設備を導入して、横浜ラボで作製を開始します。この技術は、抗体を作製するのに通常必要な抗原を使わずに、DNA 免疫により高品質の抗体を作製するもので、作製期間の短縮とコストダウンが可能となるため、様々なタンパク質に対する抗体作製の需要が見込まれます。

抗体医薬に代表されるように、タンパク質の機能解析に基づく創薬(診断薬、治療薬)及び治療法の開発が加速されつつあり、今後もタンパク質の効率的な研究・利用の拡大が期待されます。当社は、このようなニーズに即応して、タンパク発現及び精製能力を増強し、抗体作製事業を開始することで、製薬会社及び研究機関に対して高品質で独創性のあるサービスを提供し、収益の拡大を目指します。

<新設ラボの概要>

名称 : 日本農産工業(株)バイオ部 バイオ研究所横浜ラボ
所在地 : 横浜市金沢区福浦1丁目1番地 横浜金沢ハイテクセンター・テクノコア内
業務開始 : 平成16年1月

以上